

Be-News

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部

NO.126
2023 SPRING

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

Be-News



学生広報 Vinculum始動!!

研究室訪問 学びのトピラ

クローズアップ別大生

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／令和5年3月20日 印刷／株式会社 佐伯コミュニケーションズ
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石通82 TEL.0977-66-6262(広報室)
禁無断転載



LINE@



真理はわれらを自由にする

Be-Museum



《無法地帯2(ユリの気持ち)》

呉 笑 Wu Xiao (文学部 国際言語・文化学科 芸術表現コース 令和4年度制作)

抽象は具象のものよりも直接に強烈に私に印象を与える。
私はキャンパスにのせた絵具に反応して、さらに絵具をのせ、

「この位置でこの色じゃなくてはだめ」

絵を始めるのは偶然があるかもしれないが、でも、
一枚の絵の終わりはかならずに「必然」として終わる。

(F100号×2 油彩)



学びをつなぐ

高大連携・接続



別府大学では、県内高校を中心に、大学と相互連携する「高大連携」の取り組みを長年行っています。高校生にとって進路選択の幅を広げる機会となる「高大連携」は、大学にとっても「学び」の魅力を知ってもらう機会になっています。さらに2022年からは高校の学習指導要領の中で「総合的な探究の時間」が設けられ、これにともない「高大接続」への期待も高まってきました。「学び」の未来の鍵を握る「高大連携・接続」に関する取り組みをレポートします。



米粉と豆乳を使用したモチモチ食感のフィナンシェ

卵や牛乳など食物アレルギーのあるお子さんを持つ親御さんにとって、おやつは、頭を悩ませるもの。家族やお友達と一緒に食べられるお菓子や、お誕生日ケーキなど、食物アレルギーに対応したお菓子を探すことは一苦勞です。

そんなお父さん、お母さんの声に

応えたいと、お菓子の家えいらくでは原因のアレルゲン（卵、牛乳、小麦）を使用しない洋菓子づくりに取り組みました。製造にあたり、食物アレルギーが専門の高松伸枝教授に相談、指導のもとで、研究室の学生たちと一緒に開発・研究を行いました。今回共同で開発したのは、米粉と豆乳を使用

したフィナンシェです。使用する材料やその配合などを変えながら、試作を重ね「モチッシェ」を完成させました。

今後えいらくでは、新ブランド「ソイルチェ※」として、アレルギー対応菓子の種類を増やしていくそうです。おいしいお菓子を囲んで楽しい時間を過ごしてほしいですね。



別府大学 食物栄養科学部
食物栄養学科

高松研究室

お菓子の家えいらく

モチッシェ

2月3日発売 216円（税込）

4個入（メープル2個、オレンジ2個）900円（税込）

※箱代を含んでいます。



◀（後列）玖珠町商工会経営指導員の池永将人氏、お菓子の家えいらく（シェフパティシエ）永楽浩史氏、高松伸枝教授、（前列）高松研究室学生の高木彩奈さん、葉丸武士さん、矢野叶華さん

商品についてのお問い合わせ お菓子の家えいらく 大分県玖珠郡玖珠町塚脇317-1 TEL 0973-72-0211

※ソイルチェとは、英語のソイ（大豆）とイタリア語のドルチェ（お菓子）を掛け合わせて作った造語です。お菓子の家えいらくのアレルギー商品新ブランドです。（商標登録出願中）

※記事に掲載している役職・所属・学年は令和5年3月現在

Be-News NO.126 CONTENTS

23	22	20	19	18	16	14	13	9	3
インフォメーション	地域連携	卒業生インタビュー こんにちは先輩!! 大分合同新聞社小野瑞風さん 豊後高田市立高田中学校中島誠さん	石垣祭	研究室訪問 学びのトビラ 短期大学部 初等教育科 准教授 大田亜紀	クローズアップ別大生 久門健太さん （文学部人間関係学科4年） 一原彩花さん （短期大学部食物栄養科1年）	学生広報ウィングラム	別府大学卒業制作展2023	学科からのトピックス	特集 学びをつなぐ 高大連携・接続

学びを進化させる高大連携・接続

別府大学では、早くから高大連携・接続に取り組んできました。そのリーダーシップをとっていたのが、友永植学長です。友永学長に今日に至るまでの大学の取り組みと、高大連携・接続に寄せる思いを聞いてきました。

「学び」を「社会」につなぐシステム

「『高大連携』『高大接続』という言葉が耳にする機会が増えました。あらためてこの二つの言葉が意味するところを教えてください。」

友永 私が大學生であった1970年代における大学進学率は20%台でしたが、2000年代に入ると40%を超え、現在は短大専門学校まで含めた高等教育機関への進学率が約80%を超える高学歴社会を迎えています。「高大連携」「高大接続」といった考え方は、このような社会的趨勢の中で生まれてきました。ただ、この両者は時代背景を

同じくしますが、それぞれ主体と発想を異にします。「高大連携」は大学のユニバーサル化（大衆化）が進展する中で、大学と高校がその必要性からお互いが学校間の壁を乗り越えて、相互理解を進めようとした社会的動きです。一方、「高大接続」は中等教育課程と高等教育課程を接続させようとする国の教育システムの改革です。これは日本の教育制度が形作られる過程で、初等教育・中等教育と高等教育の仕組みが別々に生成されてきたところに背景があり、国は小学校・中学校・高等学校における教育課程を効率的に接続する必要からこの改革に乗り出したわけです。

「こうした社会動向あるいは国の改革には、どんな具体的な背景があったのでしょうか。」

友永 「高大連携」については、少子化時代を迎え、大学でどんな学びが得られるか知りたい高校側と、多岐にわたる専門的な学びを知らせたい大学側の利害が一致したという面が考えられます。「高大接続」については、「知識基盤社会の到来」と「グローバル化の波」に対応するという時代的要請が背景にあります。21世紀を迎え、新しい知識・情報・技術が社会を構成するあらゆる領域で重要性を増しています。そこではグローバル化、技術革新、パラダイムシフトが進み、これに対応できる柔軟な思考力と判断力が求



別府大学学長 友永 植

められます。私たち大学は、このような時代に存続し続け、このような社会で活躍できる人材を送り出すことが求められているのです。いわば「高大連携」「高大接続」は中等教育と高等教育の「学び」をつなぎ、その「学び」をさらに社会へつなぐ役割を果たすものといえるでしょう。

「調べ学習」から「探究学習」へ

「時代の変化に伴い、学びのスタイルも変わってきているのではないのでしょうか。」

友永 従来は「学力の3要素」として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」を持つて多

様な人々と協働して学ぶ態度」が必要とされてきました。しかし近年は新たに「問題解決能力」が加えられています。これは従来の高校の教科・科目にはない学びであり、強いて挙げるなら図書館を利用した「調べ学習」が該当します。本学は図書館司書の教育課程を有していますので、問題解決型学習に最適なフィールドを備えているといえるでしょう。

「『調べ学習』を通じて、与えられたテーマや課題を解決していくわけですね。」

友永 その「調べ学習」を発展させたものが「探究学習」です。

「探究学習」では生徒自身が課題を決めることから始まり、その成果や研究結果を発表します。2022年度からは高校の学習指導要領が改訂されて、これまでの「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変更され、高校生たちが主体性を発揮しながら自ら考えた課題に対する回答を導き出しています。

地域と連携しながら未来の才能を育む

「別府大学における高大連携の取り組みには、どんなものがありますか。」

友永 県内の高校生を本学に招き、実際の授業や研究を直に体験してもらっています。先進的な理数教育を実践するSSH指定校の生徒が本学の発酵食品学科の研究を目的の当りにし、学習意欲をかきたてる例もありました。このほか本学の教員が高校に出向く出前授業、各高校が開催する進路ガイダンス、高校生の探究学習に対し本学の教員や学生がアドバイスをを行う取り組み等のほか、オープンキャンパス

もそのひとつといえるでしょう。これらの取り組みは、地域連携の一環として力を入れており、地域の課題を解決する中でグローバルな視点を養い、いずれば地域で活躍する存在にとして育ててもらうのが願いです。

「附属高校である明豊高校との連携はいかがでしょう。」

友永 明豊高校が2020年に「高大連携クラス」を設け、本学と計画的、組織的な連携を行ってきました。今年の4月には初めてこのクラス出身の入学生が本学で学びはじめますが、高大連携の成果を体現した意欲的な学生さんが生まれることを頼もしく思っています。

「これから取り組みたいことはありますか。」

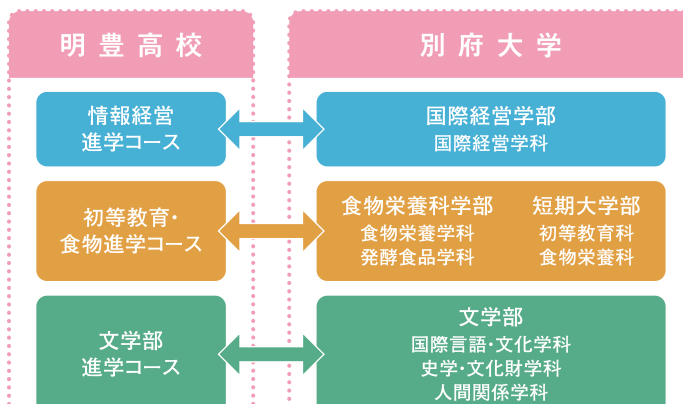
友永 アサーティブ入試の導入を検討しています。高校在学中に高大連携を通して生徒の学習意欲を促進し、入学後は高校時代に取り組んだ課題を発展させ、それを将来の可能性に広げていく仕組みづくりができればと考えています。

高大連携クラス

明豊高校 普通科

別府大学の附属高校である明豊高校は「高大連携クラス」を設置しています。「高大連携クラス」は、別府大学と連携した実践的な学びで、大学での学習に必要な幅広い知識や専門性、主体性などを身につけることができるクラスです。大学での学びや専門性に早期に触れる高大連携授業や大学施設を使用した活動を通じて、大学入試だけでなく、大学進学後の学びにつなげています。

別府大学との連携学科



高大連携クラスで、夢に向かって一直線。大学での授業や実習で専門領域に触れることができるので、すごくおもしろいです!!



初等教育・食物進学コース 門脇 美優さん、荒金 美月さん
情報経営進学コース 安部 遥希さん
文学部進学コース 伊藤 颯太さん

大学の専門性に早期に触れ、大学の授業を受けることは、進学後の学びの大きなアドバンテージになります。大学進学からその先の就職まで目を向け、目標を持って3年間を過ごしています。別府大学は地域と連携した取り組みも多いので、別府大学と協働して、地域で活躍する人材の育成に取り組んでいきたいです。



明豊高校高大連携クラス主任 戸高 智幸 教諭



探究活動

探究テーマについて
専門領域からの
アドバイス

大分県立大分上野丘高校では国際的に活躍する意欲と力を持ったグローバルリーダーを育成するため2019年から「グローバルスタディ」探究活動を行っています。1年生は地域課題を福祉・教育・健康などの視点から探究テーマにしています。各ブースに分かれて自分たちが設定したテーマを元に、本学教員の専門的な説明やアドバイスを受けながら疑問解決や更なる理解を深めました。課題解決に向け、双方向での活発な姿が見受けられました。

「廃校の活用」担当／人間関係学科
長尾 秀吉 教授(社会教育)



IT

「ITパスポート」
受験攻略

福德学院高校普通科ITライセンスコースの生徒が本学を訪れ、国際経営学科の是永逸郎教授による「ITパスポート試験攻略講座」を受講しました。人工知能、IoT（モノのインターネット）、RPA（ロボットによる業務自動化）についての講義やデモンストレーションなどを受講しました。生徒たちはITパスポート試験合格を目指し、真剣に講義に耳を傾けていました。今回の攻略講座を今後のITパスポート試験対策に役立てもらいたいです。

担当／国際経営学科
是永 逸郎 教授(経営情報論)



学びの扉をひらく

別府大学では、高校生みなさんが日頃の学びを深めるとともに、進路の選択の幅を広げる機会となるよう、高大連携事業に積極的に取り組んでいます。

観光

国際経営学科の学生と明豊高校高大連携クラス情報経営進学コースの生徒が合同で「地獄めぐりフィールドワーク」を行いました。学生・生徒のみなさんは観光客となり、大分交通(株)のバスガイド付きの観光バスで地獄を巡り、各施設を見学。観光ガイドがどのように情報を伝えているかを学びました。話す速度や声の大きさ、説明の内容など、今回学んだプロの話術を今後のプレゼンテーション能力の向上に生かしてもらいたいと思います。

担当／国際経営学科
小野 貴史 講師(観光学)



バスガイドさんに学ぶ
プレゼンテーション術



地産地消

玖珠産の大麦を活用



食物栄養学科では、大分県立玖珠美山高校との高大連携事業として、玖珠町の特産である大麦の活性化に取り組みました。2019年11月に本学学生と玖珠美山高校の生徒が共同開発した「もちふわ大麦シフォン」を美山マルシェで販売し、アンケート調査を行いました。そのアンケートの結果をもとに、2020年2月に「もちふわ大麦シフォン」の新商品としてアレンジ4種を試作しました。大麦との相性のよさ、おいしさ、膨化性などの点から検討し、今後の商品開発のヒントを得ることができました。連携により、玖珠産大麦の認知度も高まり、今後の活用について、高校生と大学生が一緒になって取り組むことができました。

担当／食物栄養学科
梅木 美樹 教授(調理学)



調理

クリスマス
を
彩るお菓子づくり



福德学院高校健康調理科1年生が本学を訪れ「行事食にチャレンジ! クリスマスカップケーキ作り」を行いました。短期大学部食物栄養科の海陸留美教授が、ふっくら焼き上げるポイントやデコレーションの仕方などを説明し、その後生徒が調理に取り組みました。生クリームのデコレーションに苦戦する生徒もいましたが、クリスマスを演出するカップケーキが完成しました。

担当／短大食物栄養科
海陸 留美 教授(臨床栄養学)



SSH

スーパーサイエンス
ハイスクール

香りのひみつを探る



大分県立大分舞鶴高校の生徒が来学し、SSHに関連した高大連携を行いました。発酵食品学科の坂本幸司教授とSSH研究に関するディスカッションを行い、その後「糖で処理した野菜やチーズのにおいに関する情報交換」「におい分析装置の見学、測定原理および分析結果の解説」「学科内研究施設および分析装置の見学」等を体験していただきました。生徒のみなさんは、香りの研究や分析について熱心に坂本教授に質問をしていました。

担当／発酵食品学科
坂本 幸司 教授(食品工学)



生誕100年企画「森の人 賀川光夫先生」

考古学者賀川光夫先生を顕彰。シンポジウムと企画展を開催

01
史学・文化財
学科

考古学者の賀川光夫先生は、本学史学科（現史学・文化財学科）の創設と大学の発展に尽力されました。先生がご存命でしたら、令和5年1月5日で生誕100年となります。

別府女子大学の講師として赴任し、別府大学上代文化研究所（附属博物館の前身）の創設に奔走されました。昭和38年には、史学科（現史学・文化財学科）を創設し、数多くの発掘、文化財保存事業に関わ



企画展「森の人 賀川光夫先生」展示会場



シンポジウムで講演する賀川洋氏



パネルディスカッションには、賀川氏と飯沼賢司特任教授、下村智特任教授、上野淳也教授が登場

人間 賀川光夫の魅力を語っていただきました。また、同日から佐藤義詮記念館のギャラリーホールでは「森の人 賀川光夫先生の世界」という企画展がはじまりました。賀川先生は考古学者・教育者であるとともに画人・文人でもあり、多くの絵日記を残し、時に詩文を残し、大分の文化人として多くの人と交流をしました。賀川先生の残された絵巻や手帳は、学者の記録であると同時に、人間 賀川光夫の生き方の絵物語です。

先生の「森」の精神は、史学・文化財学科のバイブルとして、今後も大切に受け継いでいきたいと思っています。

り、多くの文化財専門職員や考古学専門家を育成し、西日本に別府大学史学科ありという現在の立ち位置を確立しました。

しかし、残念なことに平成13年3月9日、先生が自死するという驚愕の事件が起きました。聖嶽事件です。学問に真摯な先生を事実でない報道が追い詰めました。その年、大学側は名誉回復訴訟を「週聞文春」に対して行い、3年をかけ報道は事実でないことを明らかにして最高裁で勝訴しました。

今回、生誕100年を機会に、あらためて賀川先生の学問への姿勢と人柄をたどり、次世代に受け継ぐことを目的として、

12月17日に本学3号館ホールで開催したシンポジウムでは、先生の長男である賀川洋氏をお招きし、「100年、そしてこれから」をテーマに講演していただきました。また、賀川先生ゆかりの方々にご登壇いただき先生の学問をたどるとともに



ユーモアあふれる賀川先生の絵物語



SCHOOL

学校法人城南学園
福德学院高等学校

TEACHER

敷島 唯 先生
[こども教育科担当]

本校と別府大学との高大連携の歴史は古く、健康調理科と短期大学部食物栄養科の協定から始まり、当初より体験型学習で、調理実習の模擬授業を継続しています。毎年1年生と2年生が訪問するのですが、初めてのキャンパスで将来のビジョンの説明や実技を取り入れた授業、

高校から大学教育へと繋がる架け橋的存在

さらには学食や先生方との交流に至るまで体験し、全員が目を輝かせて帰ってきます。こども教育科では保育士の資格取得を5年計画で考えています。この高大連携は大学の専門教育につながる学びとして非常に有意義で、生徒のモチベーションを高めることに大変役立っています。



こども教育科(1年生)高大連携の様子



SCHOOL

大分県立
佐伯豊南高等学校

TEACHER

羽田野 明美 先生
[総合学科主任]

本校では、1年次から別府大学を訪問し、探究活動の基礎となる「調べ学習の方法」や分野別講座の受講、学内施設見学など、学年ごとのプログラムで高大連携を行っています。大学での学びの姿勢を話していただくこともあり、進路選択において目的意識の向上につながって

地域連携を意識した取り組みに共感します

います。高校では体験できない専門的授業を受けられる場でもあり、在校生との交流も貴重な機会です。また本校は「地域連携」を強く打ち出しており、地域とのつながりを大切にする別府大学の方針と合致していると感じています。毎回、手厚い対応に感謝しています。



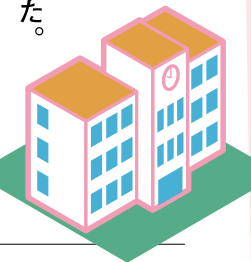
国際言語・文化学科のマンガ講義に取り組む豊南高校の生徒

県内
3
高校

の先生に聞く

学び

の現場から



SCHOOL

大分県立
安心院高等学校

TEACHER

佐脇 義敏 先生
[1年 学年主任]

大学との連携は 探究活動の道しるべ

「総合的な探究の時間」が始まり、ますます大学との連携が不可欠だと感じています。今年度の本校は、1年生が「安心院・院内からの探究」をテーマに、4分野（暮らし・社会、経済・観光、自然・生態系、歴史・文化・技術）にわたるグループ学習に取り組みました。研究の過程で、別府大学の先生方から専門的アドバイスをいただいたことが大きな気づきとなって探究学習を深めることができ、貴重な道しるべになっています。ぜひ、別府大学でも成果発表の場を設けていただき、総合的に評価してもらうことで探究学習の活性化に結びつけていきたいと願っています。



4分野にわたる地域探究では、専門的な助言が参考になりました

朝ごはんを食べて朝シャキーン!

「おおいたみのりフェスタ」でお手軽サンドイッチを販売



朝食摂取についてのアンケートも取りました



朝食にピッタリなサンドイッチ



大盛況で約100食完売しました!

食物栄養学科では10月23日の大分県農林水産祭「おおいたみのりフェスタ」にてお手軽サンドイッチの販売を行いました。

大分県では若者世代の朝食欠食が多いことから、「朝シャキーン」プロジェクトを推進しています。今回、食育ボランティア(FES: Food Education Supporter)を目指す学生らを中心に、若い方が忙しい朝でも毎日作れるお手軽で、野菜も取れるサンドイッチを考案しました。学生らは、衛生管理や食品表示をはじめ、栄養バランスや食べやすさなどに苦慮しながらも

検討・試作を重ね、楽しく学びながら活動に取り組むことができました。

当日は早朝から大学で約100食を作り販売に臨みましたが、あっという間に完売し、大盛況に終わりました。販売終了後は、朝ごはん摂取に関する資料配布やパネル調査を行うなど、地域の方々へ食育活動を行い、交流する大変貴重な機会となりました。

今後朝ごはんの大切さを啓発していくと共に手軽に食べられる朝ごはんレシピについても普及していきたいです。

04

食物栄養
学科

待ちに待った留学再開!

ハワイ大学マノア校への短期留学プログラムNICE



本場のフラを体験!!



別府大学海外留学推進センターでは留学に関する情報を発信中

8月29日から3週間、本学の協定校であるハワイ大学マノア校アウトリーチ・カレッジへの短期留学プログラムNICEが実施され、国際言語・文化学科3年生の石川倭成さんが参加しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外渡航を含む留学が中断していたため、約2年ぶりの再開となりました。

〈参加した石川さんのコメント〉

授業はすべて英語でしたが、習熟度別であったため、自分のレベルにあった最適な形で学ぶことができました。また、週に一度学外に赴き、ハワイ文化を体験しながら、深く学ぶことができた授業もあり、現地ならではの貴重な体験をすることができました。授業以外の時間はワイキキなどの繁華街や、

ダイヤモンドヘッドのような郊外、山や海などおすすめの場所を手当たり次第に周り、ハワイの自然環境と文化遺産を数多く体験することができました。日本の常識が通じない土地で過ごすうちに、常識や習慣を相対的に見る力が養えました。この力を、今後の大学生活、さらには社会人になったときに生かしていきたいです。

ダイヤモンドヘッド山頂からの景色



ダイヤモンドヘッド山頂からの景色

05

発酵食品
学科

受け継がれる伝統行事

白鬚田原神社のどぶろく祭りに参加



麹と蒸した米と水を混ぜてどぶろくを仕込みました



田原山川での米洗い



祭り当日もお手伝いしました!

杵築市大田の白鬚田原神社では、毎年10月17日、18日に氏子たちによって仕込まれたどぶろくを振舞う神事が行われています。今年は3年振りに開催され、発酵食品学科の学生がどぶろくの仕込みと当日の手伝いを行いました。

9月24日、25日の2日間地元氏の氏子の方と一緒にどぶろくの仕込みを行いました。1日目は約700キロの米を洗い、2日目は蒸したお米と麹、水と一緒に容器に入れ、權入れ作業を行いました。

どぶろく祭り当日は、参拝者へどぶろくを振る舞いました。学生

は今年のどぶろくの出来や味を説明し、積極的に参拝者とコミュニケーションをとっていました。また2日目には神輿の担ぎ手として2名の学生が参加しました。久しぶりの開催でしたが、どぶろくを楽しみにした多くの方が参拝していました。

今回のどぶろく製造と祭りを通して、学生は地域の伝統行事の大切さや地域の抱えている問題について認識することができました。来年以降も参加予定なので、ぜひ皆さんどぶろく祭りに来てください。

03

国際経営
学科

もしあなたが日本銀行総裁であったら?

白川日銀前総裁による特別講演



質疑応答では学生からも質問が相次ぎました



講演する白川日銀前総裁

日本銀行の白川方明前総裁(現在は青山学院大学特別招聘教授)が10月27日、別府大学メディアホールで講演を行いました。国際経営学科の授業の一環として実施され、3年生120人が出席しましたが、メディアホールに入り切れなかったことから、一部学生は別教室にてオンラインで聴講しました。

また白川氏が日本の金融政策を決定する組織のトップだったこと、大分支店長を務めた経験があることから学外からの関心も高く、県内の金融機関、自治体などから

も30人以上が出席しました。

講演のテーマは「金融政策の運営 もしあなたが日本銀行総裁であつたら?」。この中で白川氏は金融政策が決定される過程について自分の経験などを踏まえて詳しく説明、また最近の円安については日米両国の金利差拡大を背景に挙げ、日本の金融緩和策についての見解を示しました。白川氏は、学生から相次いだ質問に対して丁寧に応じ、同氏の誠実な人柄が感じられる講演となりました。



講演の様子

07 初等教育科から40名の 認定絵本土が誕生します！

短期大学部
初等教育科

大分県初の認定絵本土養成

初等教育科から「認定絵本土」取得予定の40名がこの3月に卒業します。

大分県では初めての認定絵本土養成機関となった初等教育科において小学校教諭・幼稚園教諭・保育士の免許・資格を取得し、さらにプラスの強みとして絵本専門士委員会(事務局・国立青少年教育振興機構)が認定する「認定絵本土」の取得に向けて取り組んできました。卒業生の高瀬郁佳さんは「絵本作家さんや読み聞かせのプロの方など、専門職の方からお話を聞くことができました。より効果的な読み聞かせについて知りたい方はぜひ受講してほしいです」と

06 先輩から後輩へ 「取り組みと笑顔とわたし」

人間関係
学科

卒業生による特別講義

11月18日、人間関係学科では卒業生の高尾亮輔氏(社会福祉法人そよかぜ 就労継続支援B型事業所ふれあいステーションひの)と施設利用者の方2名を講師としてお招きし在校生へ向けて講義を行っていただきました。講義では、「取り組みと笑顔とわたし」と題して社会福祉法人での仕事内容と利用者の思いをお話いただきました。

精神保健福祉士・社会福祉士などを目指す40名近い学生が受講し、熱心に耳を傾けていました。学生からは、「人の役に立ちたい」と

思っているのであれば、小さなことからでも自分を変えていかなければならないと思った」、「来年から実習が始まるが、人の気持ちを考えながらその人らしさを生かせるような関係を作っていたらと思った」などの感想が寄せられました。



卒業生の高尾亮輔さん

思いを語ってくれました。

卒業後は全員が、小学校や幼稚園・認定こども園・保育園等に就職し、幅広い知識や学んだ技能を活かして絵本のすばらしさや魅力、そして本の可能性を伝え、読書活動をより活性化させる役割が期待されます。



絵本作家ザ・キャンパンパニーさんによる講座

08 園児に食べる喜びや楽しさを伝えたい

別府大学附属幼稚園における食育実践プログラム「もぐハピこどもキッチン」

08

短期大学部
食物栄養科

短期大学部食物栄養科では、令和4年度より別府大学附属幼稚園の3歳児、4歳児、5歳児を対象に、栄養士を目指す本科学生および教職員が、食育実践プログラム「もぐハピこどもキッチン」を実施しています。

本プログラムは、①幼児期に食育で育みたい資質・能力を養うこと、②幼稚園における食育をご家庭につなぎ食育を支援すること、③栄養士を目指す学生の食育実践力を向上させることを目的に、各年齢の成長・発達に応じた食育の内容を実践しています。

3歳児では、食事のマナー(正しい姿勢と挨拶)、おにぎりづくり、4歳児では、食事のマナー(お箸の使い方)、さつまいもを使ったおやつづくり、5歳児では、みそづくり、クリスマス給食を楽しもう!という



3歳児 おにぎりづくり

内容で、学生たちが作成した食育教材を使用して食育指導しました。子どもにも食事のマナーや料理を教える体験を通して、卒業後の幼児教育の場における食育指導の一助になることを期待しています。また、園児に対する食育実践だけでなく、家庭でも園で実施した食育内容を繰り返し実践できるような資料提供を行い、家庭における食育の支援も行っています。



4歳児 食事のマナー(お箸の使い方)



5歳児 みそづくり

別府大学卒業制作展2023

2023年2月7日(火)～12日(日)に、大分県立美術館にて国際言語・文化学科の芸術表現コースによる卒業制作展が開催されました。絵画、デザイン、マンガ、アニメーション、言語文化のそれぞれの領域で、学生たちが4年間の集大成を披露しました。表現の追求にまっすぐに取り組んできた学生たちの情熱が溢れる展示となりました。

※裏表紙の「Be-Museum」で、呉笑さんの作品を掲載しています。



兪 誌軒《Destiny》
(縦スクロールカラーマンガ)



梁 菊姫《ハーゲンダッツと文化》
(ブランドポスター)



小畑 竜太《関係》
(182×91cm×2 アクリル)



13 Be-News



学生コメント

短期大学部
食物栄養科 2年
利光 ことみさん

参加したきっかけは？

私は写真や動画を撮ることが好きで、学生広報に参加してみました。

国際経営学部
国際経営学科 3年
宇都宮 百葉さん

どんな活動をしていますか？

私は動画班で活動しているのですが、機械音痴なところもあるので試行錯誤中です。今後は私自身、洋服が好きなので大学生の1週間コーデとかも動画にできればいいな～と思っています。

参加してみての感想は？

自分が撮った写真や考えた言葉が形として残るのはやりがいを感じます。何より、色々な人と出会いがあり、知識や価値観を学ぶことが出来てとても楽しいです。

最後に一言！

大学生活で役立つ情報をお伝えしていけるように頑張ります！皆さんも私たちと一緒にワクワクを共有しましょう！！

学生広報からのメッセージ

学生広報は、楽しく仲良く活動しています。これから取材の協力をお願いすることがあるかもしれませんが、その際はご協力よろしくお願い致します！またメンバーも大募集中です。別府大学をもっと知りたい・魅力を伝えたい、一緒に活動してみたいという方は、InstagramのDMまたは学生広報室までご連絡ください。こんなことをして欲しいというアイデアやご意見もお待ちしております！

(編集:竹中・城・伊藤・後藤・利光)

私たち、こんな活動をしています

活動内容



動画班



別大生の学生生活を動画で発信しています。思わず共感してしまう学科別の「あるある」や課外活動の様子など、別大生の“今”をぜひ見てください。こんな動画が見たいなどのアイデアも大募集中！！

空きコマ時間



授業が入ってない時間（空きコマ）を過ごす別大生に突撃取材しています。ほかの学科の人は？先輩たちは？別大生にインタビューした「空きコマ」の過ごし方をご紹介します！

先生紹介リレー



先生へ「趣味」をテーマにリレー形式で取材を行っています。受講しているだけではわからない先生の意外な一面を知ることができるかも。この投稿を先生と関わるきっかけにしてみたい？



別府大学 学生広報

ウィンクルム

始まり
ました！

Vinculum

ウィンクルム

ラテン語で「絆、(人との)繋がり」を意味する言葉です。活動を通じて、学科を越えた別大生同士の絆や繋がりを作っていきたいという思いが込められています。

「学生広報」って何？

令和4年9月から別府大学、別府大学短期大学部を好きだと思ってくれる「別大ファン」を増やすため学生広報「ウィンクルム」が始動しました。学生ならではの目線で学生や教員、大学の取り組みを取材しInstagramで発信しています。

Instagramでは3グループに分かれての動画や取材記事の投稿に加えて、学食の日替わりメニューやイベントの様子をストーリーズで発信しています。また、研修としてテレビのディレクターやリポーターの方との座談会なども行いました。

取材や動画作成の経験のないメンバーがほとんどですが、「別大の魅力を発信したい！」という熱い思いで活動しています。



ウィンクルムの活動はInstagramでCHECK!

15 Be-News



@BEPUPU_GAKUSEI_KOHO

Be-News 14

アスリートを支える 栄養士を目指して

スポーツが大好きで、自身も選手として活躍し
現在はサポートするための勉強に励む一原さん。
さらなる専門分野を学ぶために編入を希望しています。
夢に向かって歩みを進める一原さんに、
勉強や学校生活についてのお話を聞いてみました。

栄養について学ぼうと思ったきっかけは何でしょう

私は小・中・高校と陸上をしていて、短距離の選手でした。高校で伸び悩んだとき、その原因が栄養不足と言われたんです。「もっと食べなさい、カロリーが足りていない」と指導されましたが、もともと食が細く、多くを食べられませんでした。そんな経験から、同じような状況で苦勞するスポーツ選手を栄養面でサポートする人になりたいと思い、食物栄養科に進学したんです。

将来は、スポーツ選手一人ひとりに合わせた栄養管理をして、世界で活躍する選手をサポートしたいです。そのために、より専門知識を学べる大学への編入を考えています。

学生生活で印象深かったことは？

農林水産祭で、さばカツクレープを販売しました。さばカツの他に、いんげんの胡麻和えやパプリカ、かぼちゃ、きなことが入りヘルシーで、行列ができるほど好評でした。同時に行った朝食アンケートの結果、栄養が足りていない人が多そうだったので、量が多くなっても栄養をしっかりとれるメニューを考えて行こうと思いました。

大変だったのは「学生レストラン」ですね。事前予約制で、献立作り・栄養価計算・発注・調理・提供まですべてを体験する実習です。60～80人もの大勢の食事を作るのが大変で、先を見て行動しないと終わらず苦勞しました。バターチキンカレーやとり天を作りましたが、好評をいただいてよかったです。

短大は科目ごとに課題が多く大変だと思いますが、勉強のコツはありますか？

自分なりの勉強のコツは、空き時間をうまく使うことです。短い時間に集中するのは効果的です。また、曜日ごとの授業でファイルを分けています。思い立ったときに、すぐ勉強ができる状態を作るのがコツかもしれません。分からなかったらすぐ先生に質問しています。先生が親身になって指導してくれるので質問しやすく、楽しく勉強できています。

在学生や高校生に向けて、アドバイスを お願いします

私は普通科の高校を卒業し、料理はほぼできない状況でした。入学して「自分だけでできなかったらどうしよう」と不安でしたが、私と同じような人も大勢いました。授業でも基礎的なことから丁寧に教えてくれるので、安心してください。分からないときは先生が分かりやすく教えてくれるので、積極的に質問するといいですよ。

短期大学部
食物栄養科
1年
一原 彩花さん
(大分県立大分雄城台高等学校出身)



令和3年度大分県高校総体では4×100mリレーで優勝しました！



農林水産祭「みのリフェス」で販売した、さばカツクレープ

学科を超えたつながりで 伝える・知る大切さを 学んだ大学生活

社会福祉士を目指し進学した久門健太さん。
多数のイベントに参加するなどアクティブに活動し、
「この大学だからこそできたことがある」と話します。
活動の様子や気持ちの変化を語っていただきました。

支援学校から大学へ入学した当初は、 どんな様子でしたか？

支援学校の時は、少人数のクラスでしたが、入学当初は、80人という規模に圧倒され、遠慮がちで同級生とも距離がありました。けれど次第にみんなが自分の障がいを受け入れてくれ、2年次からは領域に分かれ少人数のクラス編成になったことやゼミでの関わりもあり、今ではすっかり打ち解けています。

人前に出て話をする機会も多く、 活発に行動されていますね

じっとしてられないんです(笑)。大学2年生の時、授業の一環で「ぶっちゃけトーク」という企画に参加し、自分の障がいについて周りに話をする機会がありました。同級生からは「思いを知ることができて良かった」という言葉をもらい、伝えることの大切さを実感したんです。小学生の前で障がいについて話をしたときも、みんな熱心に聴いてくれました。何事も、まず“知る”ことが大切だと思っています。

4年間の大学生活を振り返って、 思うことはありますか？

2～3年生はコロナ禍でオンライン授業ばかりでしたが、それもプラスになりました。車椅子では会いに行きにくい県外の人もつながることができました。それから、大学創設70周年記念プロジェクトに学科代表として参加したことで、学年・学科を超えたつながりもできました。別府大学だからこそ、できたことだと思います。また、友人に車を運転してもらい豊後高田や佐伯に遊びに行き、昭和の町を巡ったり、ピザや海鮮丼を食べたりしたことも良い思い出です。誘ってくれて嬉しかったですね。

私は844gの超低体重児として生まれ、現在は車椅子生活。障がいについて色々と思い悩むこともありましたが、「これだけの経験をさせてもらいありがたい」と考えられるようになりました。

これからめざす道とは？

卒業後は社会福祉士として、支える側を目指しています。自分自身、これまで多くの福祉サービスを使わせてもらい、それが生活の支えになっていたので自分も、障がいのある人の想いに寄り添いたいです。まず、クライアントの想いやその背景をしっかり聴いて“知り”、そして、4年間で学んだ知識や技術、自分の経験を生かして様々な人の幸せにつながるように頑張っていきたいです。

もう一つ。小学校5年生から描いている油絵。心を揺さぶられるような出来事があったとき、自分は何ができるだろうと考え、絵で伝えられると気づきました。特に油絵は、自分が納得いくまで塗り重ねて完成できる点が好きですね。大学在学中は制作を休んでいましたが、これからも描き続けたいです。

クローズアップ

Closeup!
別大生

キラリと輝く別大生を
紹介します。

文学部
人間関係学科
4年

久門 健太さん

(大分県立別府支援学校高等部出身)



友人と行った栗島公園での1枚



油絵の他に水彩画も描き出す

プロフィール

1967年福岡県生まれ。上越教育大学大学院 教科・領域教育専攻 言語系(英語) 修士(教育学)。福岡県公立小学校教諭、教頭、福岡県教育センター指導主事を経て2019年4月より別府大学短期大学初等教育科准教授として兼任。「外国語指導法」「指導法特論(外国語)」「英語コミュニケーション」等の科目担当。近著「伝わる喜びを味わう児童が育つ小学校英語教育」(東京書籍/2022年)



「短大海外留学2019—ニュージーランド」語学研修、幼児施設ボランティア体験、ホームステイでのNZ生活体験は、学生にとって思い出深い体験に!

短期大学部 初等教育科 准教授
大田 亜紀
Aki Ohta

子どもたちの未来を明るく豊かにするために 小学校外国語教育ができること

日本の英語教育の始まりは、時代をぐんぐん遡り江戸時代からと言われています。では、小学校の英語教育はいくから始まったのでしょうか。研究開発校等での実施もありますが、小学校学習指導要領で示されている小学校での外国語教育は、総合的な学習の時間における「国際理解教育」の一環として始まります。その後「外国語活動」が誕生し、全国全ての小学校高学年で必修化されました。大学時代に外国語の指導法等を学んでいない現職小学校教員からは、指導に対する不安が一気に溢れました。当然の空気です。しかし教員研修や日々の授業づくりを通して、授業イメージを持ち指導力をつけてきています。外国語活動のねらいは、「コミュニケーション能力の素地を育むことです。言葉を用いて相手と意味のあるやりとりを行い、他者と理解し合うこと。まさにこれからの子どもたちに求められる力といえます。その基本的な理念を同じくして、教科として小学校外国語科が新たに始まりました。小学校に外国語教育が入ってきた流れの真ただ中、新たなものを創り出す楽しさを存分に味わいながら授業をたくさん経験してきました。試行錯誤の連続でしたが、小学校に導入された外国語教育は、子どもたちの未来をより豊かにすることにつながっていると感じています。そのために何ができるのか、求められる在り方を日々

追究しています。

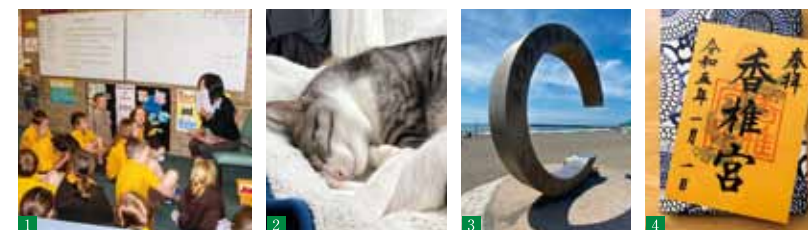
小学校の先生たちと
授業を通して学ぶ

2019年より大学勤務に変わりましたが、授業場面を中心として小学校教員時代からずっと研究を継続し、現在は、特に小学校外国語教育における学習評価に関する研究をしています。現行学習指導要領から外国語科においては評価が必要となり、またもや先生方を悩ませるタネとなっている現状です。「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料「小学校外国語活動・外国語科」の作成に関わらせていただいたこともあり、各地で開催される研修会に講師として伺うことも多くあります。コロナ禍ゆえ、オンライン研修や講義の動画撮影も多く、カメラ目線の笑顔で話すことにもずいぶん慣れてきました。事件は現場で!の通り、実際の授業参観、授業づくりを小学校の先生と共に行うことを通して、あれこれ悩んだり、新しい発見があったり、ドラマティックな授業はわくわくの塊です。

Let's enjoy making mistakes!

短期大学部初等教育科の学生に英語学習等についてアンケート調査をしたことがあります。「英語はあまり好きではない」という学生が「英語は好き」という学生より多くいます。

~ Other sides of Aki Ohta ~



1 院生時代にMt.Brown小学校(オーストラリア)での授業経験。日本との授業スタイルの違いが新鮮! 2 わが家の愛猫メイ(♂2才)週末帰省での私の楽しみ、私の癒し。はあ~可愛い♡ 3 サザンは、もう何十年来のbig fan! 4 2023年はもっと神社仏閣巡りを! 仏様や神様に日々の感謝を伝え安寧を願います。初めて御朱印帳を購入!

「好きだけど苦手」という学生も多く、間違いに對する不安がとてもあるようです。私の担当する「英語コミュニケーション」の授業の合言葉は「Let's enjoy making mistakes! 英語は気持ちに8割!」です。英語は一つの言語、相手とコミュニケーションを図る手段です。外国語を学ぶ良さや楽しさを彼らに味わってほしいと「コミュニケーション場面の多い授業を行う工夫をしています。伝え合いたい思いを大事にし、You're OK!」を常に投げかけています。



令和4年11月5日(土)~6日(日)に「第77回石垣祭」を開催しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学内者のみの参加とし規模を縮小しての開催となりましたが、多くの学生が参加し盛り上がりました。石垣祭実行委員会を中心に吹奏楽団・音楽系サークルのライブや沖縄エイサー団によるエイサーの披露等毎年恒例のイベントに加えて、今年は人気ゲー

ムの大会やサークル紹介、スポーツ振興会主催の球技大会なども実施されました。

また、おおい地域連携プラットフォームや大分県社会福祉協議会等のご協力をいただき、フードドライブも実施され、受け取り希望の学生が列を作るほど盛況でした。



豊後高田市立高田中学校 家庭科教諭
中島 誠さん
短期大学部 食物栄養科
令和3年度卒業



子どもたちに地元食材を使った 美味しい料理を伝えたい



卒業時に伊藤京子先生から贈られた
指示棒を大切にしています

大分県内の中学校家庭科で、男性教諭として初の採用試験合格となった中島誠先生。現在は初めての赴任校である豊後高田市立高田中学校の教壇に立っています。

子どもたちから料理を作るのが好きで、小学生の時は、地元の由布市の公民館「はさま未来館」で開かれていた料理教室に友達と通っていました。本格的に栄養士を目指していた時、迷うことなく別府大学短期大学部の食物栄養科を受験して入学しました。

教職の授業を通して、家庭科教諭になりたいと思うようになり、栄養士と合わせて、中学校家庭科教諭と栄養教諭の免許取得も目指しました。教育実習で先生方の教育に対する情熱を感じ、さらにその気持ちが強くなったそうです。模擬授業を繰り返し行うなど、試験対策に力を注ぎ、見事採用試験合格

「実践を通じた指導を大切にしています。いずれは豊後高田の特産品であるネギや蕎麦などを使い、地域に密着したメニューを取り入れたいです」と、意気込む中島先生。生徒たちの美味しい笑顔が、何よりも楽しみなようです。



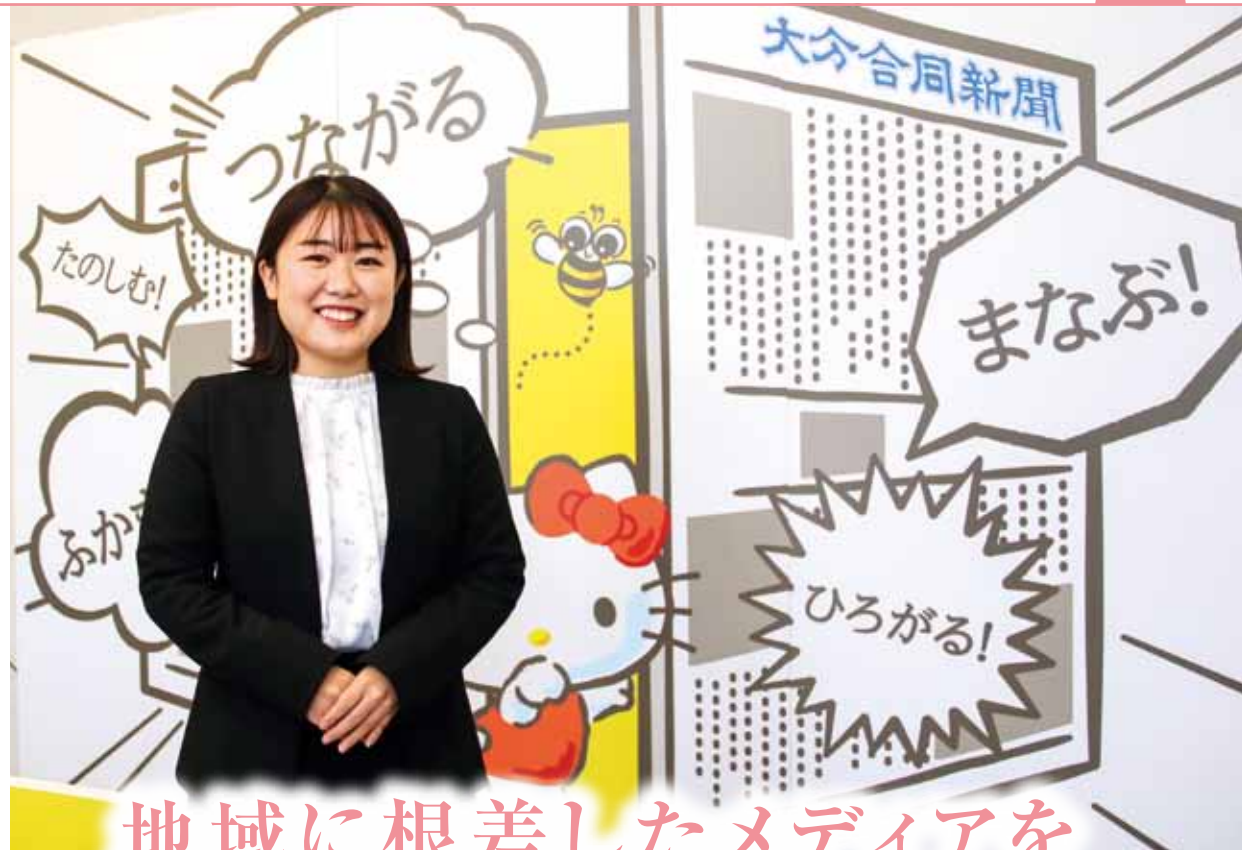
子どもたちと笑顔でコミュニケーションを
とりながら料理の指導をする中島先生

格を果たしました。

「職場の先生方から多くのことを学び、教師としての力をつけていきたいです。生徒から信頼されるだけでなく、生徒の長所を見つけ、自主性を伸ばしてあげられる教師になりたいです」と熱い想いを語ってくれました。

高田中学校での調理実習に立ち会ったのですが、当日の課題メニュー「鮭の味噌チーズ焼き」は短大時代に教わったものだそうで、生徒たちと楽しくコミュニケーションを取りながら指導していました。家庭科の先生は一人しかいないので、1年生から3年生まで全学年を担当しているのですが、すっかり人気の先生となっている様子でした。

大分合同新聞社マーケティング統括局 イベント事業部
小野 瑞風さん
別府大学 国際経営学部国際経営学科
令和3年度卒業



地域に根差したメディアを 通じて大分を盛り上げたい

本校から初めて新聞社に新卒採用された小野瑞風さんは、もともと公務員を目指していました。しかし再生可能エネルギーを研究する国際経営学科・阿部博光教授のゼミに所属した際、かつて通信社に勤務していた阿部教授から記者時代の話を聞いたことで、新聞に興味を持ち始めたそうです。

「若者の新聞離れが叫ばれて久しいですが、あらためて新聞を読み込むと、政治、経済、生活文化、そして地域情報に至るまで、あらゆる記事が網羅されていることを再認識しました。スマホでネットニュースを読むのも便利ですが、興味のあるものに偏りがちです。もっと新聞を読んでもらいたい」と思い、地元紙である大分合同新聞社の採用試験を受けました。

阿部教授のアドバイスで模擬取材の対策と、持ち前の情熱あふれる姿勢が通じ、見事に難関を突破し、採用に至りました。

採用後の配属先は希望していた報道部ではなくイベント事業部で



子ども向けのクリスマスイベントを担当。
楽しい企画を考えました

「新しいイベント企画を提案することでも考えているところです。地元紙の強みを生かして、地域と深い関わりを持てるイベントに仕上げていきたいですね」

ゆくゆくは記者として現場に出たいと願う小野さん。この経験が役に立つことは間違いありません。

「最初に担当したイベントは、ナイターソフトボール大会です。県内18市町村の予選から始まるのですが、コロナ禍でしばらく休みだったイベントなので、おおいに盛り上がりました。私の出身地である宇佐市の方々とともにあえましたし、大会終了後の手応えは忘れられないものになりました」

以降、夏の花火大会や日本舞踊の名流会、子ども対象の絵手紙コンクールやクリスマスイベントなど、幅広い世代に向けたイベントの運営に携わっています。



花火大会や日本舞踊の名流会など、
多彩なイベントに関わっています



別府医療センターと看護学部設置・運営に関する包括連携協定書を締結

別府大学は、令和4年11月、(独)国立病院機構別府医療センターが実施した「別府医療センター敷地内の建物を活用し看護大学を設置・運営する学校法人の公募」に採択され、12月15日に別府医療センターと「看護学部設立・運営に関する包括連携協定書」を締結しました。協定書の調印式では、大分県の山田雅文福祉保健部長の立ち会いのもと、別府医療センター院長兼看護学校長の学長矢野篤次郎氏と本学の友永植学長が署名を行いました。

今後、別府大学は、この包括連携協定の趣旨を生かし、別府医療センターと連携を図りながら、令和7年4月に看護学部を設置する計画で文部科学省への設置認可申請手続を進めてまいります。

【出版のお知らせ】『神経・生理心理学 脳から心を科学する』矢島潤平教授

人間関係学科の矢島潤平教授(専門:臨床心理学)が、『神経・生理心理学 脳から心を科学する』を出版しました。公認心理師カリキュラムの必修科目「神経・生理心理学」に対応しており、公認心理師や臨床心理士を目指す方に必読の一冊です。

『神経・生理心理学 脳から心を科学する』中島恵子矢島潤平編著/ミネルヴァ出版/2022年12月1日



電車をテーマにシャッターアートを制作

国際言語文化学科学生が、「別府市民・学生大同窓会(別府市主催)」の企画の一環として、JR別府駅南高架下の別府駅市場にシャッターアートを制作しました。芸術表現コースの2年生が中心となり電車をテーマに2つの作品に取り組みました。市場のお客さんや商店街の方々とたくさん温かいご支援をいただきありがとうございました。みなさんぜひ立ち寄りください。



篠崎由美子教授が絵画作品を寄贈

本学のキャンパスには、大分県や本学にゆかりの作家による美術作品が展示されています。この度、日本画制作と文化財保存修復を専門とする国際言語文化学科の篠崎由美子教授から、日本画作品を寄贈いただきました。先生が制作したもので、『空』と『地』の2作品が対になっています。作品は本館の5階の520会議室に飾られ、凛とした雰囲気漂わせています。



ONSENアカデミアで温泉文化の維持について語る

11月26日に別府ビーコンプラザで「ONSENアカデミア(別府市主催)」が開催されました。「温泉文化を持続可能にするために」と題したパネルディスカッションでは、史学・文化財学科3年の重光宏哉さんがパネリストとして登壇。共同温泉の清掃や温泉のPR活動など学生たちによる活動を紹介しました。地域の方たちとともに温泉文化について考える貴重な機会となりました。



地域連携



18号館ギャラリー展示「Beppu Up in 別府大学」を開催しました

一般社団法人DESIGNERS COMPANY Y.H2020(デザイナーズカンパニーユーツー、以下ユーツー)の主催で、障がい者アート展「Beppu Up in 別府大学」を本学ギャラリーにて開催しました。本展は、「別府から元気を届ける」をテーマにしたアートイベントで、本学では昨年に引き続き開催に協力し、一緒に別府を元気にする展示を行いました。

今回のテーマは平和。会場の中央には大きなひまわり

のランタンが設置されました。それを囲むように飾られた小さいランタンは、別府大学の学生も制作に協力しました。

また関連企画として音楽イベントも開催し、「ユーツー音楽隊」のメンバーのみなさんによる、歌や演奏が披露されました。また来場者のみなさんと平和への願いを込めてランタンに明かりをともしました。

ユーツーのみなさんの作品が、交流の輪を広げ、たくさんの人たちの心をつないでくれました。



平和をテーマにした作品約30点を展示

障がい者アート展「BEPPU Up in 別府大学」

開催期間	会場
令和4年11月21日(月)～30日(水)	別府大学佐藤義詮記念館 2Fギャラリー



学生たちがランタン制作に協力しました



音楽イベントで、ランタンに明かりをともしました



【別府大学×竹田市】大学地域連携事業10周年記念シンポジウム「大学との連携で地域に元気を!」を開催しました

本学は平成23年12月に「別府大学文化財研究所竹田センター」を設置し、竹田市との地域連携事業をスタートしました。本事業が始まって10周年を迎えることを記念し、本学と竹田市の共催でシンポジウム「大学との連携で地域に元気を!」を10月29日に竹田市総合文化ホールグランツたけたで開催しました。

はじめに、史学・文化財学科の段上達雄特任教授が「学生たちと竹田一城原大祭と民俗調査」と題して講演。続いて、シンポジウム「岡大豆のポテンシャルを探る」では、岡大豆復興プロジェクトに携わってきた下村智特任教授らがパネリストとなり、様々な観点から岡大豆

の可能性を検討しました。

今回のシンポジウムを機に今後の更なる連携事業の発展につながることを期待しています。



Be-NewsはHPでもご覧いただけます。

本学HPでは、下記ページにてBe-NewsのPDF版を公開しています。バックナンバーもご覧いただけます。

<https://www.beppu-u.ac.jp/general/pr/>

Be-Newsへのご意見ご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。

別府大学・別府大学短期大学部 広報室
〒874-8501 大分県別府市北石垣82

TEL : 0977-66-6262 E-mail : koho@nm.beppu-u.ac.jp

大学では2月、3月は入学試験や卒業式など、別れと出会いの準備の期間です。新しい4月へ向けての準備はいかがでしょうか。今号は、高大接続・連携を特集しました。県内の高校の先生方や友永学長へのインタビューから、大学進学の本質が変わってきていることを感じます。大学での学びの一端を紹介するそれぞれのコーナーでは、まさに変わる大学の学びの一片をお伝えできましたらうれしく感じます。

広報室では、次年度へ向け、より多くの情報をお伝えできるよう、学生広報スタッフとともに準備中です。楽しみにしてください。(一)